さっぽろ第２支部　支部だより

あじさい

発行／公益社団法人北海道看護協会　札幌第2支部　令和7年3月

第42号

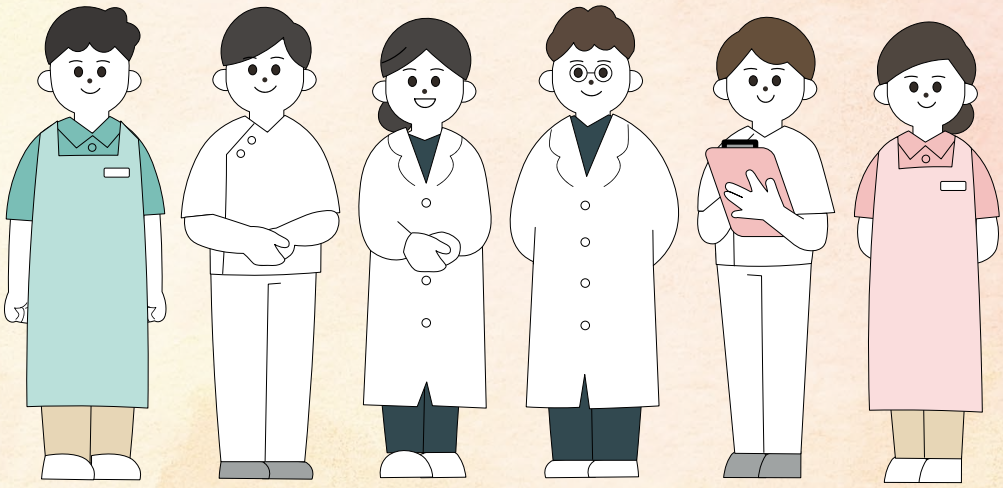
札幌4支部合同保健師職能研修会

2024年10月26日(土)

「ケアラーを取り巻く課題とこれからを考える～家族丸ごと支援する視点を学ぶ～」のテーマで、一般社団法人日本ケアラー連盟理事中村健治氏にご講演いただきました。

ケアラーとは、介護や介助などの直接的なケアのみではなく、周囲の人には見えづらい看病、療育、世話、気づかいなど、対象者にとって必要な様々なケアを無償でしている人を指します。全てのケアラーが支援の対象ではなく、自分の生活に大きく影響している場合に支援が必要であり、ケアラーの概念の広さを理解することが支援の第1歩になります。ケアラーは、対象者の情報源として扱われることに慣れていますが、ケアラー支援の先進国であるイギリスでは、ケアラー自身がアセスメントを受け、就労、教育、余暇活動等への参加意思を自治体が確認することが法律で定められています。家族支援の重要性について改めて学ぶことができました。

多くの問題を抱えた家族は、自らそれぞれの専門相談機関に相談に行くこと自体が困難です。たらい回しでなく、チームで連携して対応できる地域を作っていくことが求められています。ケアの始まりは病気や障害です。看護職としてケアラーの問題に気づくことが対応の始まりになります。日常の中で私たち一人一人に何ができるか考えていくことが重要だと思いました。



人材育成研修

2024年11月16日㈯

札幌第２支部教育委員会では、「多様な価値観を理解した関わりと人材育成～あなたの関わり、時代に適していますか～」というテーマでWeb研修を開催しました。講師には、認定看護管理者・精神看護専門看護師であり、教育やコンサルテーションなど様々な施設で実践をされている㈱ここから　代表取締役の村本好孝先生をお迎えし、ご講義をいただきました。85名の参加があり、多様性というキーワードに対する関心の高さが伺えました。

研修会では、様々な特性をもったスタッフ達と協働していくためには、スタッフの主体性や多様性を尊重し、一人一人のもてる力をどのように発揮していくかを考えていくことが大切であることを学びました。また、支援する側の姿勢としては、肯定的なコミュニケーションをベースに、「問題点」ばかりに目を向けるのではなく、スタッフ自身がどうそれに対処してきたのか・今後どうなりたいのか・そのためにはどうしていったらいいのかを一緒に考えていく姿勢が必要であることも学びました。

今回の研修を通して、様々な特性をもつスタッフの捉え方や、関わり方を考えるための基本的な知識や姿勢について学ぶことができ、自身の他者への関わり方を振り返る機会となりました。講師の先生をはじめ、参加された皆様に心より感謝いたします。これからも、ニーズに合った研修を企画していきます。

施設間交流研修のご報告

働き続けられる職場づくり推進委員会主催による2024年度の施設間交流研修が、無事に終了しました。今年は８施設に受け入れていただき、７施設から10名が参加しました。株式会社ナースエナジー灯訪問看護【在宅看護】、株式会社ナースエナジー灯訪問看護・なちがはる【在宅看護・施設看護（看多機）】、手稲渓仁会病院【フィジカルアセスメント】、はまなす訪問看護ステーション【在宅看護】、札幌医科大学付属病院【褥瘡予防】、札幌秀友会病院【入退院支援】、訪問看護リハビリテーションセンターななかまど中央【在宅看護】、札幌西円山病院【NMH高齢者ケア】の皆様にご協力いただきました。特に、訪問看護ステーションでの学びを多くの方から希望され、異なる立場からの視点や他施設との意見交換が好評でした。参加者の多くが上司の勧めや自身の意欲から参加し、高い満足度が報告されました。次年度も多くの皆様のご参加をお待ちしております。

編集後記

２月に支部大会を終えて、広報出版員会も新たなメンバーを迎えての活動となりました。今年度も「さっぽろ第2支部だより　あじさい」で研修会のお知らせや報告などを会員のみなさまにお伝えしていきます。どうぞよろしくお願いします。
３月になり、新年度に向けて何かと忙しい時期かと思います。春も近づいてきましたが、まだまだ寒い日も続きますので、みなさまお身体に気を付けてお過ごしください。

広報委員　S・H